

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部文化学科
学年(出発時)	3年
大学名	シャルル・ド・ゴール リール第三大学
国	フランス
留学期間	2017年 2月 10日 ~ 2018年 2月 1日
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学时)	
	記入欄
8:00	
9:00	
10:00	授業
11:00	授業
12:00	授業
13:00	昼食
14:00	
15:00	授業または友人と過ごす
16:00	授業または友人と過ごす
17:00	
18:00	クラブ活動等
19:00	帰宅
20:00	夕食
21:00	
22:00	課題・自主学習
23:00	
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
DEFI 前期	17		仏語	授業内発表、課題、試験
DEFI 後期	3		仏語	授業内発表、課題、試験
日本語学部文学セミナー	2		仏語	授業内発表、レポート
芸術学部講義【ダンス】	3		仏語	授業内発表
芸術学部集中講義【コント】	15(1週)		仏語	授業内発表
芸術学部集中講義【音楽】	15(1週)		仏語	授業後少年刑務所での発表会

大学のサポート	
チューターの有無	無
チューターのサポート内容	
語学コースの有無	有
コース名、料金、期間等	DEFI 交換留学生のため半期のみ無料

生活	
住居のタイプ	寮
住居の名前	Résidence Belvédère
部屋タイプ	個室
ルームメイト(国籍)	無
室内設備	キッチン、シャワールーム、トイレ
共用施設	洗濯室
インターネット設備	有
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩
アルバイトの有無	無
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	学生ビザ
Visa申請先	フランス大使館
Visa取得にかかった日数	約1ヶ月
Visa取得にかかった費用	約27000円
Visa取得方法、提出書類等	Campus France 登録後指示に従う
留学先大学の最寄り空港までの経路	セントレアから飛行機
渡航費用	往路約5万円 復路約9万円
ピックアップサービスの有無	無

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	留年
有る場合、その理由	卒業論文と就職活動が未完了のため
就職活動開始時期	2018年3月
帰国後の進路	就職

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	1150ユーロ＝153000円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	自主的に申し込んだ夏期講習代 450ユーロ＝60000円
宿舍費(月額)	283ユーロ＝38000円
光熱費(月額)	宿舍費に含まれる
食費(月額)	135ユーロ＝18000円
その他	3400ユーロ＝455000円
留学期間中にかかった費用の合計	約10060ユーロ＝1340000円

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

私はこの一年間、実際にフランス社会の中に身を置くことで、生のフランス語力や、社会に根付く価値観を肌で学ぶことを目指しながら、最初に立てた『私らしい1年間を送る。留学を受け身で終わらせない。』という目標のもと、授業の傍ら様々な活動に積極的に参加してきました。

大学では、日本語学科の院生向けセミナーの中で、三重大学で専攻していたフロイトに関して、フランス人学生の前で発表を行いました。芸術学部の授業の一環として少年刑務所を訪れた際には、受刑者の子供たちと音楽を通して交流し、一緒に刑務所内演奏会を開催しました。コントの授業の最終発表会では、日本の落語をフランス語にアレンジしたものを披露し、フランス人のクラスメイトや先生方に落語の面白さを理解してもらうことができました。どの授業に対しても、ただ先生の話聴くだけでなく、自ら授業を活性化させられるような、自発的な学習態度を心がけました。

放課後は、留学生の仲間たちと各国のステレオタイプに関する劇を作る課外活動に参加し、大学で発表会を行ったり、コーラスクラブに加入してみんなで合宿やコンサートを行ったりと、たくさんの友達を作って毎日フランス語を話すよう努めました。

大学外では、移民・難民の友人たちと共に活動するアソシエーション、DEEP Franceに所属し、移難民・外国人住民と地元リールのフランス人住民との交流イベントを企画・運営、その集大成として10日間に渡るワークショップと舞台発表会を行い、大成功させました。イベントを作り上げる上で苦楽を共にしたDEEPの仲間たちは、今ではお互い“家族”と呼び合えるほどの固い絆で結ばれています。彼らと出逢ったことで、三重大学で所属するフランス社会学ゼミで学んでいた“移民問題”に対する捉え方は180度変わり、留学しなければ決して得られなかった視点を得ることができました。

DEEPでの活動を通して、言葉や文化の壁を恐れず自ら“発信”することの大切さを学んだ私は、大学の日本人、フランス人の友人たちと共に日仏交流のためのダンスグループ、LiL Girls!を結成し、街中でJpopの曲を踊る路上ライブを行ったり、フランス人や留学生の学生たちにソーラン節を教えるワークショップを開催したりと、自分の好きなダンスを通して日本文化を伝える活動にも力を注ぎました。

そして何より、これらの活動に不可欠な語学力を養うため、学期中の授業に日々集中して取り組むのはもちろんのこと、長い夏期休暇を利用して地元の語学学校の夏期講習を探し、3週間毎日通うことでクラスレベルの飛び級など、更なるスキルアップを実現しました。

また、元三重大学への留学生で私の日本でのルームメイトでもあったAgatheのお母様のご厚意で、毎週お宅にお邪魔してフランス語のレッスンをしていただき、元教師でいらしたお母様の丁寧なご指導のもと、フランス語での児童書の読解などにも取り組みました。

この1年間を振り返ってみると、様々な活動に挑戦することで直面した挫折と苦悩を、たくさんの出逢いと経験に支えられ、ひとつひとつ乗り越えてきたように思います。最初に自分に課した『私らしい1年間を送る。留学を受け身で終わらせない。』という目標は、1年かけて漸く形にすることができたのではないかと感じています。

今後は、支えてくださったすべての人々へ感謝の気持ちを伝えるためにも、私が体験し学んできたことを活かし、三重大学での活動に精力的に取り組んでいく所存です。

今後留学する人へのアドバイス

留学先での他の日本人留学生の過ごし方を見ていて、本当に人それぞれだなと強く感じました。

1年間という限られた時間をどう使い、成長に繋げるのかは、完全にあなた次第です。「こうすればいい」という正解がないからこそ、“自分らしさ”をどう出すかが試される…それが留学なのではないかと私は思います。

なので、私からできるアドバイスはただひとつ、「怖がらず飛び込んでみて！」ということだけです。そこから先は、何度でも悩み、考えながら、あなた自身で切り開いていく世界です。自分自身と向き合いながら、あなたらしく走り続けていれば、結果はおのずと付いてくるのではないのでしょうか。

誰のマネでもない、「あなたの留学」を形にできるよう、祈っています！